

【運営方針5】効率的・効果的な運営

【評価基準】 A:大きく上回る B:上回る C:概ね達成 D:やや下回る E:下回る

【基本方向】効率的な情報共有体制の確保と効率的な業務執行体制づくり					
評価項目	評価目標	具体的方策	取組状況	評価	次年度に向けた改善策
1 職員の教育能力の向上	(1) 職場研修の実施回数:6回	① 研修会への参加及び開催【継続】 指導職員の教育能力の向上のため、研修会への参加や職場研修等を実施する。	・毎月開催している指導職員会議において、各種研修に参加した指導職員が研修報告を行い、指導職員全員で学生の指導法や日々の授業の組立て方、最新の農業技術等について研修した。	(1)・・・B 職場研修の実施回数:8回	・来年度も、指導職員が積極的に研修会に参加し、その内容を指導職員全員に復命する取組みを引き続き行う。
	(2) 公開授業の参加・実施:各2回	② 公開授業への参加及び開催【継続】 指導職員が、高等学校等の公開授業に参加して指導方法等を学ぶとともに、農大内部でも公開授業を行い、職員間で他学科の講義や実習について相互に学び合い、教育能力の向上を図る。	・当校職員が新庄神室産業高等学校と新庄養護学校の公開授業に参加し、授業の進め方、生徒とのコミュニケーション方法等、高等学校教員等の指導方法を研修した。 ・校内での公開授業を稲作経営学科と野菜経営学科において実施し、授業後、授業の組立て方、教材の工夫、学生への接し方等について議論した。	(2)・・・C 公開授業の参加・実施(各2回)	・各指導職員は、高等学校や校内他学科の公開授業で見聞した指導方法等を、自らの講義・実習の改善に、引き続き活用していく。
2 組織的な運営体制の強化	(1) 各種会議の実施率:100%	① 各種会議の開催【継続】 経営会議を毎週開催し、学校運営の基本方針や懸案事項に対する対応方針を決定し、職員会議や指導職員会議等において情報共有するとともに、必要に応じて教授会等で具体的な進め方を検討し、課題等に迅速に対応する。	・経営会議の開催(毎週)、職員会議・指導職員会議・担任会議の開催(毎月)、教授会の開催等により、情報共有を図るとともに、必要な事項を協議した。 ・必要に応じて臨時経営会議を開催し、対応方針等を協議した。	(1)・・・C 実施率:100%	・今後も、課題の内容に応じて各会議を開催し、関係職員で、具体的にかつ効率よく協議し、対応していく。
		② 職員間の情報共有【継続】 毎日の朝会において、各学科の実習取組状況や学生の状況等を把握するとともに、農場・施設管理等の部門毎の運営部会の取り組みを把握し、日常の校務を効率的かつ確実に実施する。	・入校試験や行事等で朝会が開催できない場合を除き、毎日朝会を開催して情報の共有を図り、迅速な対応に務めた。また、年間計画に基づき部門毎の運営部会を開催し、農場や施設、行事の円滑な運営を図った。		・朝会では経営会議等で決まった対応方針等を全職員に伝え、意識の共有化を図ることで、迅速な対応につなげていく。
3 県の重点施策等や社会情勢に対応した学校運営の取組み	(1) 学校評価:C以上100%	① 学校評価の実施【継続】 本校の運営方針は、本県の重要施策等に沿って進め、地域農林業を支える担い手の育成を第一義とする教育・研修に取り組むとともに、毎年度、農林大学校運営評議委員会の評価に基づき取組内容等の改善を図る。	・5つの運営方針ごとに、評価項目、評価目標等を設定し、学校運営評議委員に検討していただいた。 ・専門職大学の設立に関連して、有識者から成る農林大学校の機能強化プロジェクトを立ち上げた。	(1)・・・C 学校評価: :B評価40% C評価60%	・次年度以降も、職員会議や学生アンケート等により課題を抽出するとともに学校運営評議委員会の評価を踏まえて、教育計画の編成等を行っていく。なお、学校評価の取組みを効果的に進めるため、第1回運営評議委員会を年度当初の5月に開催する。 ・専門職大学の設立に向けて、基本計画の策定を進めることとしており、農林大学校でも機能強化プロジェクトを立ち上げ、学科構成やカリキュラム等の教育内容や効率的な学校運営について、抜本的な検討を行う。
	(2) 学生の満足度:80%	② 学生からの評価の実施【継続】 学生による学習及び生活等の満足度に関するアンケートを実施し、これに基づいた改善を実施する。	・全学生を対象として、日頃の学習内容や寮生活、学生会活動、サークル活動等に関するアンケート調査を1月に実施した。 ・アンケート調査に基づき、改善が必要な案件については、学生会役員等との打ち合わせを行い、改善を図った。	(2)・・・B 学生の満足度: (「農大に入校して良かったか」の設問に対する学生の回答で、5段階評価*中4以上の割合) 86%	・今後とも、学生が充実した農大生活を送れるよう、学生へのアンケート調査と学生会役員との打合せを実施し、課題の改善を図っていく。

*:評価基準 5:よく当てはまる、4:当てはまる、3:どちらとも言えない、2:あまり当てはまらない、1:当てはまらない

自己評価 <ul style="list-style-type: none"> ・ 職員の教育能力の向上のため、職場研修を6回以上行うとともに、公開授業を4回行うことができた。 ・ 学校運営に必要な事項は、各種会議で効率的に協議して迅速に対応した。また、学生の様子や寮生活の状態等を朝会や担任会議で情報共有しながら、学生指導に活かすことができた。 ・ 学校評価については、運営評価委員の意見とともに、県の重点施策に沿って効率的な学校運営を実施した。 	評価 C
---	--------------------

学校関係者評価(意見・要望等)→現在の取組状況・次年度の改善策 <ul style="list-style-type: none"> ・ 少子化により農業高校の受験者数自体が減少している中で、小・中学生にも分かり易く丁寧で継続的なPR活動が必要な時期であると考えている。 → 小中学生の学校見学や職場インターンシップ等を積極的に受け入れ、農林業が小中学生のなりたい職業の一つとなるよう進めていく。 	評価 C
---	--------------------